

橿原市労働者福祉協議会学習会 「SDGs」を学ぶ 持続可能な世界に向けて

南和地協と友好関係にある、橿原市労働者福祉協議会は10月22日学習会を社会福祉センターで開催し、20人が参加しました。

学習会は、『SDGs と私たちの未来』と題し、



講師には人権派社会保険労務士の北場好美さんに講演を行っていただきました。

世界は、貧困、紛争、感染症、

気候変動、資源の枯渇などこれまでになかった数多くの課題に直面しており、人類が安心して暮らし続けることが出来なくなってくると言われています。そんな危機的な状況を脱するため、2015年に課題を整理し、解決方法を考え、2030年までに達成すべき具体的目標を立てたのが、『持続可能な開発目標（SDGs）』です。キーワードを『誰ひとり取り残さない』こととしています。

2030年は先のように感じますが、それまでに達成できるかは容易でありま



せん。また日本の未来も持続可能かと言えば、決してそうではなく課題が山積しています。

人口の急減が働き方に大きな変化をもたらし、労働者人口の減少、労働者の4割を占める非正規労働者の更なる増大し、そのことによる貧困の拡大と負の連鎖、社会保障の「崩壊」、繰り返される災害、コロナ感染症の拡大と持続可能な社会を困難にしています。人口減少を克服し、地方の創生、日本の創生を目指すため、何をしていくのかがひとり一人に問われており、労働組合としても取り組みが求められています。

連合は、『持続可能性』と『包摂』を基本にお互いに認め支えあい、誰一人取り残されることのない社会とするとしています。

この学習会を通じ、具体的な行動していくことの認識を深めました。

11月連合奈良の日！！ 連合奈良も参加し、過労死ゼロ、 奨学金問題を訴える！

11月5日、連合奈良の日街宣行動を、23人が参加し近鉄八木駅前で行いました。

当日は連合奈良西田会長の挨拶に始まり、松田副事務局長のディセントワーク、過労死ゼロの訴え、その後参加した連合奈良推薦議員から、各議会での課題や当面して取り組んでいる問題について、市民への訴えが行われました。

コロナ禍で乗降客が減少していたが、原因が不明ですが、沈静化傾向にあることを反映して、回復しつつあり、1000枚のティッシュとビラを配布しました。

参加された連合推薦議員：森山県議、大保橿原市議、松尾橿原市議、上田橿原市議